

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年5月12日（金）

2 確認箇所

- (1) K4タンクエリア
- (2) 中央交差点西側駐車場

3 確認項目

- (1) 多核種除去設備等処理水測定・確認用設備におけるシートパスの対応状況
- (2) 使用禁止車両の油漏えいの対策状況

4 確認結果の概要

- (1) 多核種除去設備等処理水測定・確認用設備におけるシートパスの対応状況について

東京電力は、多核種除去設備等処理水を放出する前に、放出対象の水が規定の濃度以下であることを確認するための設備である測定・確認用設備を整備している。

3月19日、多核種除去設備等処理水測定・確認用設備において、サンプリングのためタンク群の水を循環・攪拌させる運転を行っていたところ、当該運転を行っていたB群タンクとは別のA群A10タンクで水位低下が起こった。その後、原因としてタンクA群の隔離弁である電動弁2つにシートパス^{*}が発生していることが判明した。

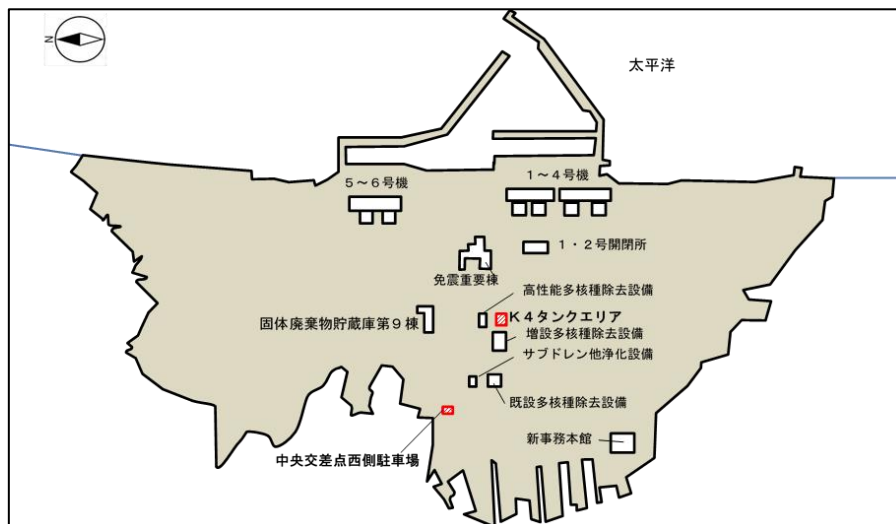
東京電力による原因究明の結果、カップリングボルトと呼ばれる、電動機の動きを弁に伝えるボルトの締め込みが甘く、正常に行われていなかったことが判明した。これにより、弁体とシート部に隙間ができ、A10タンクの水がB群タンクに流入したと推定されている。

東京電力は、対策の一つとして、弁保護カバーに表示されている、弁体と電動機を締結させる際の注意事項の見直しを行っており、現場における状況を確認した。（図1）（前回確認：令和5年3月22日）

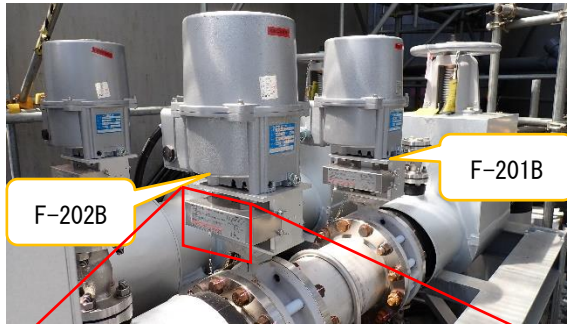
- ・シートパスがあった電動弁は、前回確認した際、ビニール養生されている状態だったが、今回確認したところ、ビニール養生及び一部保温材が外されている状態だった。（写真1-1）
- ・弁保護カバーにある記載を確認したところ、電動機と弁体を締結させる際の基準が、カップリングボルトの締め込みが甘くならないよう、ボルトの突き出し量（締め込んだボルトの余った部分の長さ）により明確に記載されていた。（写真1-2）

- ・他の電動弁についても確認したところ、確認したK4タンクエリアの電動弁の保護カバーは同様の記載となっていた。（写真2）には一例としてB群入口弁の状況を示す。

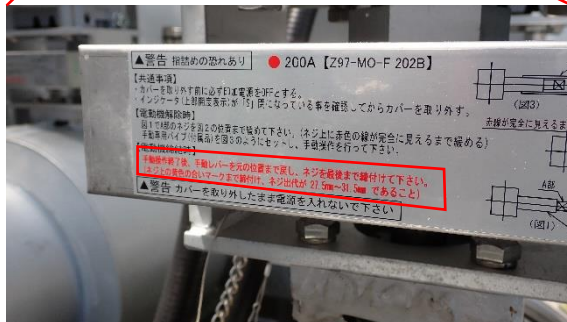
※シートパス：弁が正常に流体の流れを止めることができない状態。弁の本体（弁体）とそれを受けるシート部（弁座）に何らかの理由で隙間があり、漏れている状態。



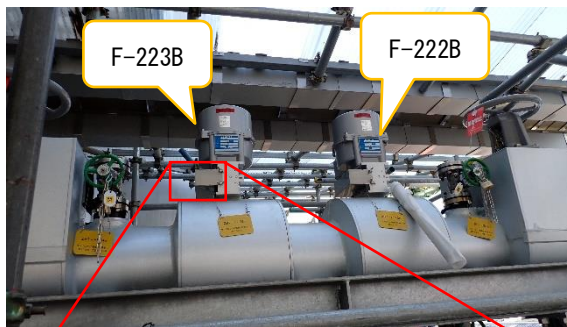
(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



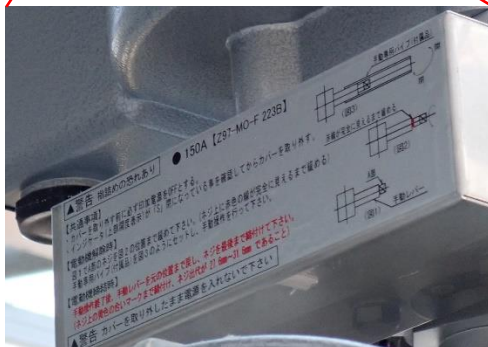
(写真1-1)
シートパスがあったA群タンク
出口電動弁 (F-201B 及びF-
202B) の状況



(写真1-2)
弁保護カバーの状況 (F-202B)
赤枠内に当該記載がある。



(写真2-1)
B群タンク入口電動弁の状況
(F-222B 及びF-223B)



(写真2-2)
弁保護カバーの状況 (F-222B)

(2) 使用禁止車両の油漏えいの対策状況について

5月10日、中央交差点西側駐車場における使用禁止車両の保管状況を確認したところ、重機後部の左右ジャッキ2箇所から作動油の漏えいがあることを確認したため、東京電力に通報し、応急対策されている状況を確認した。よって、その後の対策状況を確認した。(図1) (前回確認：[令和5年5月10日](#))

- ・漏えい箇所(1箇所目)には油吸着シートが敷かれ、受パンが設置されており、漏えい箇所は養生されていた。(写真3)
- ・漏えい箇所(2箇所目)には油吸着シートが敷かれ、漏えい箇所は養生されていた。(写真4)



(写真3-1)

漏えい箇所(1箇所目)の状況
(撮影日: 5月10日)

(写真3-2)

漏えい箇所(1箇所目)の対策状況
(撮影日: 5月12日)



(写真4-1)

漏えい箇所(2箇所目)の状況
(撮影日: 5月10日)

(写真4-2)

漏えい箇所(2箇所目)の対策状況
(撮影日: 5月12日)

5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。